

(13) グループホーム・桑の実

【概要】認知症の状態にある高齢者の方々が、家庭的な雰囲気の中で、過去に体験していた役割（食事の支度や掃除・洗濯・趣味活動等）を顔なじみの人たちと一緒にしながら、心身の状況を穏やかに保ち、安心して暮らせるよう共同生活援助サービスを提供しました。

【事業実績】

月	要支援1	要支援2	小 計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小 計	合 計
4	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	90	30	60	88	0	268	268
5	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	72	31	62	92	0	257	257
6	人	0	0	3	1	3	2	0	9	9
	回	0	0	88	30	89	60	0	267	267
7	人	0	0	3	1	3	2	0	9	9
	回	0	0	93	31	93	62	0	279	279
8	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	93	31	56	93	0	273	273
9	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	90	30	60	90	0	270	270
10	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	93	31	61	93	0	278	278
11	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	90	30	60	90	0	270	270
12	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	93	31	61	93	0	278	278
1	人	0	0	3	1	2	3	0	9	9
	回	0	0	93	31	61	76	0	261	261
2	人	0	0	3	2	2	2	0	9	9
	回	0	0	84	41	56	56	0	237	237
3	人	0	0	3	2	2	2	0	9	9
	回	0	0	93	62	62	62	0	279	279
計	人	0	0	18	6	14	16	0	54	54
	回	0	0	526	183	420	485	0	1,614	1,614
前年度	人	0	0	36	14	26	32	0	108	108
	回	0	0	1,072	409	781	955	0	3,217	3,217

【研修・会議等参加状況】

月 日	主な会議・研修会等	開催場所
平成28年4月28日	第1回運営推進会議	桑の実
5月12日	気仙沼市唐桑町防火管理者協会総会	唐桑総合支所
6月10日	第1回唐桑地域多職種連絡会	燦さん館
6月14日～6月21日	認知症実践者研修（6日間）	宮城県介護研修センター
6月22日	事業所管理者等研修会	仙台市イズミティ
6月22日	介護サービスの質の向上に関する市町村担当者、事業所管理者等研修会	イズミティ 21
6月24日	認知症実践者研修（実習）	グループホーム村伝
6月29日	第2回運営推進会議	桑の実
8月16日	桑の実臨時スタッフ会議	桑の実
8月17日	平成28年度認知症グループホーム等交流会	ワンテン庁舎
8月23日	認知症実践者研修（まとめ）	宮城県介護研修センター
9月1日	福祉施設防犯講習会	ワンテン庁舎
9月6日	平成28年度福祉サービスの苦情解決に関する研修会	仙台アエル
9月13日	認知症講習会	ワンテン庁舎
9月29日	第3回運営推進会議	桑の実
11月5日	第4回運営推進会議	桑の実
11月29日、30日	普通救命講習	燦さん館
1月20日～12月23日	他事業所外部研修	ぼらん、村伝
12月16日	多職種連絡会	燦さん館
平成29年1月23日	第5回運営推進会議	桑の実
2月13日	入居検討委員会	桑の実
3月24日	高齢者・障がい者権利擁護研修会	仙台市シルバーセンター
3月18日	第6回運営推進会議	桑の実

※ スタッフ・ケア会議

毎月定期開催

（桑の実相談室）

※ 事故防止対策委員会

毎月第3金曜日定期開催

（社協本所会議室）

【成果】認知症介護の専門施設として入居者様、ご家族様に信頼と安心を得られる施設を目指し、職員研修の充実を図るとともに、体制整備を行いました。
(平成28年度 介護報酬目標達成度99% 前年度98%)

【課題】入居者様への接遇の在り方について、基本に立ち返って見直すとともに、職員研修を基に共同生活の中で、どのように個別支援を行っていくべきかを考え、実践に繋げる必要があります。
また、夜勤可能な介護職員の人員確保が課題となっています。

【今後の取組】

1. 事業運営基準に係る必須研修及び認知症介護施設の加算条件にある研修を計画的に受講します。
2. 各種記録様式他、他施設の活動なども参考にして行事や活動を活発に行います。
3. 地域住民の方々やボランティアとの連携により、地域との繋がりを増やします。

【決算】事業活動収入	35,340,750円	事業活動支出	35,696,038円
拠点区分間繰入金収入	3,500,000円	その他の活動支出	798,300円
		当期資金収支差額	2,346,412円

(14) もとよし福祉用具貸与事業所

【概要】福祉用具の有効活用による自立支援と介護者の負担軽減による介護機能の充実強化に努め、安心して在宅生活が継続できるようにサービスを提供しました。

【事業実績】

月		要支援1	要支援2	小 計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小 計	合 計
4	人	6	12	18	13	14	10	17	15	69	87
5	人	6	13	19	11	13	9	19	14	66	85
6	人	6	14	20	10	15	8	17	12	62	82
7	人	5	17	22	9	13	11	17	14	64	86
8	人	4	16	20	9	13	12	17	14	65	85
9	人	6	12	18	10	15	14	16	13	68	86
10	人	5	11	16	12	13	15	15	13	68	84
11	人	5	13	18	11	14	13	19	12	69	87
12	人	6	12	18	11	14	13	17	12	67	85
1	人	6	12	18	15	13	14	17	11	70	88
2	人	6	12	18	16	12	14	16	12	70	88
3	人	7	11	18	14	12	14	14	13	67	85
計	人	68	155	223	141	161	147	201	155	805	1,028
前年度	人	31	108	139	90	250	175	170	192	877	1,016

【研修・会議等参加状況】

月 日	主な会議・研修会等	開催場所
平成28年6月18日 ～7月31日	福祉用具専門相談員養成講座 (全7日間)	仙台市三幸福祉カレッジ
7月12日	平成28年度高次脳機能障害者支援事業圏域研修会	気仙沼保健福祉事務所
7月31日	介護保険に関する指定介護サービス事業所等集団指導	気仙沼保健福祉事務所
9月6日	福祉サービスの苦情解決に関する研修会(事業者対象)	仙台市アエル
9月16日	パラマウントケアサービスセミナー	登米市にぎわいセンター
平成29年3月10日	平成28年度本吉地域ケアマネジメント情報連絡会 事業所内会議：定例会議及び伝達研修(随時開催)	本吉保健福祉センター「いこい」

【成果】社協が行う福祉用具貸与事業所として、福祉用具に関する相談だけでなく利用者の生活全般を支援できるよう、事業所会議などを通じ総合的サービスの視点を持つための職員の意識高揚を図りました。また、独自のカatalog兼パンフレット作成、介護保険以外の独自ベッド等を確保し、軽度者の段階からの関りづくりや利用者確保に向けて取り組みました。

【課題】軽度利用者の増加に伴い利用者数は、昨年の実績を若干上回っておりますが、年度当初に計画した利用者数を達成できていない状況にあり、軽度者向けの福祉用具の利用比率が高くなり収入に結びつかない状況にあります。

【今後の取組】社協職員として利用者の生活全般を支援していけるよう質の向上を継続的に行うため、定期的な内部会議や研修会を開催していきます。また、健全な経営を目指すため、事業所独自のカatalogやチラシを定期的に更新・発行し、事業周知を行い利用者確保に努め収支バランスを安定させていきます。

【決算】事業活動収入 12,051,496円
その他の活動による収入 643,000円

事業活動支出 12,394,708円
施設整備等による支出 137,680円
その他の活動による支出 162,108円
当期資金収支差額 0円

1 3. 老人福祉センターの管理事業

(1) 気仙沼市老人福祉センター「福寿荘」

【概要】気仙沼市老人福祉センター条例及び指定管理に係る基本協定書に基づき、各種相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上、老人クラブの活動及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与できる体制の充実に努めました。

【事業実績】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
館内	開館日数	20	19	22	20	22	20	20	20	19	19	20	22	243
	*集い・教室・講座													
	回数	28	27	29	29	25	29	28	25	29	27	29	28	333
	人数	693	726	767	830	548	759	805	578	675	647	729	702	8,459
	福寿荘行事				1		2		2		1			6
	回数				21		293		234		23			571
	人数													
	奉仕活動				1									1
	回数				30									30
	人数													
	施設実習・見学						1	3	4					8
	回数						14	26	24					64
	人数													
	その他	7	7	6	5	7	6	4	5	4	4	4	6	65
	回数	110	104	108	87	105	88	75	89	77	76	77	99	1,095
	人数													
館外	計	35	34	35	36	32	38	35	36	33	32	33	34	413
	人数	803	830	875	968	653	1,154	906	925	752	746	806	801	10,219
	*移動福寿荘				1				1					2
	回数				56				34					90
	人数													
	市老連関係	1	2	4	1	2		5	3	1	1	3	1	24
	回数	6	84	151	5	81		97	114	12	8	120	6	684
	人数													
	関係団体	3	3	3	6	1	5	1	4	2		6	3	37
	回数	68	71	45	101	6	66	46	97	18		378	31	927
	人数													
	計	4	5	7	8	3	5	6	8	3	1	9	4	63
	回数	74	155	196	162	87	66	143	245	30	8	498	37	1,701
	人数													
合計	回数	39	39	42	44	35	43	41	44	36	33	42	38	476
	人数	877	985	1,071	1,130	740	1,220	1,049	1,170	782	754	1,304	838	11,920
生きがいデイサービス (※再掲)	回数	28	27	29	30	25	29	28	26	29	27	29	28	335
	人数	693	726	767	886	548	759	805	612	675	647	729	702	8,549

【成果】趣味の集い活動及び独自講座並びに介護予防事業を継続して開催し、生きがいのある学習活動を推進しました。また、各集いの利用者が心身ともに健康的な生活を継続していくことができるように心のケアセンターや市高齢介護課の専門機関の協力をいただき、介護予防に関する普及啓発講座を開催し、多くの参加を得ました。なお、利便性に配慮し、2階の女子トイレを和式トイレから洋式便座へ改修しました。

貸館利用者に対しては、情報提供や活動資機材の活用ができるように配慮するなど幅広い対応を行い、多くの参加利用がありました。また、大島移動福寿荘を開催し、多くの参加を得ました。(①グラウンド、ゴルフ大会、②ユニカール講習会)

【課題】施設の老朽化対応が必要です。また、福寿荘独自講座開催に当たり、多様化するニーズに応えられるよう職員の資質向上が必要です。

【今後の取組】介護予防事業及び福寿荘独自講座の内容を充実させ、若年高齢者の利用促進の増加に努めるとともに、施設的环境整理等に迅速に対応し、来訪者にとって居心地の良い環境づくりに努めます。

また、今後も、介護予防に関する啓発講座の内容を充実させ継続的に実施します。

【決算】事業活動収入	19,300,000円	事業活動支出	22,863,040円
その他の収入	5,018,510円	その他の活動支出	1,109,220円
(運用基金より繰入充当)		当期資金収支差額	346,250円

(2) 気仙沼市本吉老人福祉センター

【概要】気仙沼市本吉老人福祉センター条例及び指定管理基本協定に基づき、生きがい活動支援事業実施(市受託事業)のほか、センターの貸部屋や老人クラブ活動支援を行い、高齢者の活動拠点としての充実を図りました。

平成28年6月30日をもって老人福祉センターとしての機能は廃止となりました。

【事業実績】

区 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		20日	19日	22日										61日
集 会 室	各種団体数	0	0	0										0
	延べ人数	0	0	0										0
	老人クラブ数	0	0	0										0
	延べ人数	0	0	0										0
会 議 室	各種団体数	5	3	1										9
	延べ人数	42	29	12										83
面 接 室	各種団体数	1	1	1										3
	延べ人数	4	4	4										12
図 書 室	各種団体数	10	8	10										28
	延べ人数	35	18	25										78
娛 楽 室	各種団体数	0	0	0										0
	延べ人数	0	0	0										0
デ イ ル ー ム	各種団体数	0	2	2										4
	延べ人数	0	19	30										49
ヘルストロン		0	0	0										0
室		0	0	0										0
合 計		81	70	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	222

【成果】立地が不便ながらも貸館などで来所する住民に対し、社協職員が配置されていることの強みをいかし、情報提供や各種相談、活動資機材の活用が出来るよう配慮するなど、丁寧で幅広い対応を心がけました。

28年7月1日からは本社協所有施設となったことから、倉庫の解体や機械室を改修し、駐車場を拡張する等利用者への利便に供しました。

【課題】施設の老朽化への対応が課題です。

【今後の取組】施設は、平成28年6月30日をもって機能廃止となりました。7月1日付で本会が市から建物を譲り受け、地域福祉活動の拠点施設としての事業展開を積極的に進めていくこととしています。

【決算】事業活動収入 160,000円 事業活動支出 181,356円
 当期資金収支差額 -21,356円
 (前期末支払資金残高から充当)

14. 市受託事業

(1) 気仙沼地区応急仮設住宅入居者サポートセンター運営事業

【概要】 応急仮設住宅等における中高年の孤立や生活不活発病を防ぐため、生活相談員・看護師等による相談支援や入居者同士・地域住民を交えた交流活動・イベントの企画等を行いまた、関係機関、団体等との連携により仮設住宅退去後も安心して自立した生活を送れるように支援しました。

【実績】

事業内容等	区 分	件数等	前年度	備 考
出張サポート	仮設住宅集会場等	13 カ所	36	他の仮設住宅集会場等での相談会の開催
	公民館等（借用）	6 カ所	6	仮設住宅集会場等以外での相談会の開催
	相談者数	234 人	369	出張サポート時の相談者数
交流支援事業	交流イベント（他団体共催含む）	114 回/カ所	78	お茶会・イベント等
	参加者数（延べ）	1,889 人	504	交流会への参加者人数
連携調整事業		159 回	155	地区別ミーティングやNPO/NGO連絡会等
仮設訪問	住宅団地数（延べ）	1,439 カ所	1,938	訪問した仮設住宅団地数
	戸数（延べ）	4,020 件	6,391	訪問した住宅団地内の戸数
	（内不在、延べ）	1,664 件	2,589	訪問したが不在（状況確認）
公営住宅訪問	住宅団地数（延べ）	70 カ所	24	訪問した公営住宅団地数
	戸数（延べ）	142 件	59	訪問した公営住宅団地内の戸数
	（内不在、延べ）	35 件	13	訪問したが不在（状況確認）
在宅（仮設以外）	戸数	18 件	20	みなし仮設等
	（内不在）	3 件	2	訪問したが不在（状況確認）
相談件数	住宅関係	91 件	107	住宅等の問題
	健康相談	595 件	574	身体的健康の問題
	精神的問題	5 件	5	PTSDなど精神的問題
	介護関係	4 件	7	介護保険等相談
	家庭関係	0 件	2	DVなど問題
	交通等	1 件	2	通院や買い物等の問題
	経済関係	1 件	11	経済的な問題
	交流	5 件	13	孤立や交流等の問題
	その他	60 件	60	上記以外の問題など
	合計	762 件	781	
研修会	内部研修	11 回	8	社協内部研修会実施
	外部研修	23 回	24	外部研修会への参加

【成果】 仮設住宅等から災害公営住宅に転居する方への支援として市主催の入居者説明会及び交流会に参加し、顔合わせができる機会をつくりました。仮設住宅では自治会、親睦会が解散・休止したことにより、住宅内での活動が難しい場所では他機関と連携し、活動が継続できるよう支援を行ないました。また、ボランティアセンターと協力し地域でのサロン活動も開催しました。

【課題】 8割の方が災害公営住宅への転居や自立再建し、仮設住宅での空室が目立ってきており、入居する住民からは、これからの生活や防犯等の不安を話されます。

地域サロン活動では、定期的に開催することと共に地域の担い手づくりも行なっておりますがこれまでの習慣や地域性などもあり難しく新たなコミュニティーづくりの課題です。

【今後の取組】 仮設住宅の入居者は減っていきますが、関係機関と協力しながら住民の活動支援を継続し、要援護者への戸別訪問も継続します。また、地区支援者ミーティング等で、関係機関と連携しながら新たな取り組みを行う際にも積極的に参加していきます。

【決算】 事業活動収入 26,014,878円

事業活動支出 24,943,002円
 その他の活動による支出 1,071,876円
 当期資金収支差額 0円

(2) 気仙沼市「絆」再生事業

【概要】応急仮設住宅等に入居している被災者及び応急仮設住宅以外の地域に住まわっている被災者等の孤立化予防と自立支援に向け、復興支援コーディネーターと生活支援相談員を配置し、個別支援と地域支援を実施しました。

【実績】

事業内容	区 分	件数等	備 考
交流事業 (仮設・地域)	交流イベント (他団体共催含む)	222 回/ヶ所	お茶会・イベント等
訪問状況	戸数(延べ)	9,958 件	
継続訪問世帯数 (見守り等)	仮設住宅	247 件	3月31日現在
	在宅・みなし等	875 件	3月31日現在
相談件数	住宅関係	37 件	住宅等の不具合等
	介護関係	9 件	介護に関する相談
	生活環境関係	12 件	
	交流・社会参加関係	44 件	交流希望・孤立の問題
	交通等関係	1 件	交通手段や時刻表
	精神的問題	3 件	心の問題
	隣人等関係	6 件	隣人トラブルなど
	健康面	5 件	体調面の心配
	物資関係	1 件	物資の問合せ
	軽微なお手伝い	14 件	相談員等スタッフが対応できる軽微な作業
	児童関係	0 件	児童サービスの問合せ
	障害関係	2 件	障害サービスの問合せ
	経済面	6 件	経済的な問題
	傾聴	4 件	不安や葛藤等の相談
	その他	31 件	上記以外の問題など
合 計		175 件	
連携事業	民協定例会出席	132 回	12地区ごと月1回
	地区別支援者ミーティングやNPO/NGO連絡会等	285 回	地区別支援者ミーティング毎月開催 NPO/NGO連絡会等毎週開催
各団体との 連携調整	仮設住宅自治会長	329 回	原則全仮設訪問時に情報交換
	地域の自治会長や各種地域団体	855 回	随時連携・交流事業(イベント)の共催など
	行政・サポセン・友愛・復興協会・復興構・NPO/NGO等との情報交換	0 随時	
研修会	内部研修	33 回	内部研修実施
	外部研修	18 回	外部研修会への参加

【成果】応急仮設住宅は、支援者間の役割分担連携により現状の把握ができています。みなし仮設については、情報提供や声掛け訪問を重点的に行うことで丁寧な関わりと、相談支援、関係機関、地区民生委員と連携して見守る目を増やしました。個別訪問を行い、将来の住まいの把握への支援活動を行いました。

災害公営住宅入居者に関しては、生活援助員(LAS)との同行訪問を実施するなどして途絶えのない支援を行うとともに、入居者説明会時の交流会実施と入居後の交流会開催など、地域団体と連携しながら地区の状況に合わせた柔軟な活動を行いました。

また、地域での交流会開催時は、地域のキーパーソンや活動団体と一体となり開催し、孤立化の予防と生きがい支援、健康支援など、被災者と地元の力(人材)の両者を生かす事業を行いながら、住民主体、地域福祉の視点でコミュニティづくりの推進に努めました。

【課題】応急仮設住宅においては、残された方々への丁寧な関わりが必要です。

また、災害公営住宅入居者においても、環境の変化による体調の変化や周囲との関係性づくりが懸念されることから、個別訪問、健康相談や生きがい支援、地域との繋がり作りの取り組みがより必要と感じます。

公営住宅への入居が加速している中、個別支援と地域支援の連動をいかにに行い、市民がより転居した地域に馴染めるか、それを促進しているかが課題です。公的支援者との情報共有と合わせ、地域福祉団体や既存自治会等から一層の理解・協力をしていく仕組み、体制づくりが不可欠です。

【今後の取組】個別訪問では、課題を共に考える姿勢を大切にし、一層丁寧な関わりを行います。また、交流会等を通し地域での解決力向上を意識的に働きかけます。

なお、地域福祉推進者の人材育成も継続して実施しながら、誰もが安心して支え合う地域を目指します。

【決算】事業活動収入 84,176,128 円

事業活動支出 81,432,190 円

その他の活動支出 2,982,938 円

当期資金収支差額 -239,000 円

(前期末支払資金残高から充当)

(3) 気仙沼西地区高齢者相談室運営事業

【概要】災害公営住宅や防災集団移転の整備に伴い、被災した高齢者等の移転先での生活再建や自立生活を援助するため、巡回訪問により安否確認や見守り・声掛け・相談等を行う「生活援助員（L S A）」を配置し、安心して自立した生活を送れるように援助しました。

【実績】

事業内容等	区 分	件数等	備 考
災害公営住宅 巡回訪問	住宅数（延べ）	4	カ所 訪問した災害公営住宅団地数
	戸数（延べ）	3,311	件 訪問した戸数
	（内不在、延べ）	1,069	件 訪問したが不在（状況確認）
防災集団移転先 巡回訪問	住宅団地数（延べ）	2	カ所 訪問した防災集団移転先数
	戸数（延べ）	166	件 訪問した戸数
	（内不在、延べ）	59	件 訪問したが不在（状況確認）
応急仮設住宅 巡回訪問	住宅団地数（延べ）	8	カ所 訪問した応急仮設住宅団地数
	戸数（延べ）	517	件 訪問した戸数
	（内不在、延べ）	174	件 訪問したが不在（状況確認）
相談件数	住宅関係	55	件 住宅等の問題
	健康相談	12	件 身体的健康の問題
	精神的問題	0	件 PTSDなど精神的問題
	介護関係	10	件 介護保険等相談
	家族関係	4	件 DVなど問題
	交通等	0	件 通院や買い物等の問題
	経済関係	0	件 経済的な問題
	交流	24	件 孤立や交流等の問題
	傾聴	25	件
	その他	427	件 上記以外の問題など
	合計	557	件
お茶会等イベン ト活動	交流イベント（他団体共催含む）	181	回/2カ所
	参加者数（延べ）	2,972	人 交流会等への援助活動
地域支援活動	自治会等	5	回/1カ所
	参加者数（延べ）	501	人 地域行事への参加協力
広報公聴活動		3,676	部 高齢者相談室や生活援助員の周知
各種連絡調整会議	行政・サポセン・ボラセン・友愛・NPO/NGO等	49	回 行政・サポセン・ボラセン・友愛・NPO/NGO等との情報交換
職員研修状況	内部研修	4	回 社協内部研修会実施
	外部研修	22	回 外部研修会への参加

【成果】南郷住宅では二つの高齢者交流サロンも円滑に運営され、清掃活動・植栽等、自治会の活動も着実に行われています。

四反田住宅は既存の自治会と融合して四反田区自治会が新たに設立され、交流会・お茶会・カラオケの会等も行われました。ごみ出しのルールも入居者の話し合いで決められ、階毎の清掃当番も段取りよく進められました。

交流会等の援助も適宜行い、見守り・声掛けを含む、訪問活動にも計画的に取り組むことができました。専門機関との連携や情報共有もうまく行えるようになり、入居者への援助活動の幅を広げることができました。

【課題】会えない方・健康面で心配のある方等との関わり方を、どのように考えていけばよいか試行錯誤の状況です。

【今後の取組】担当地区では災害公営住宅や防災集団移転先への入居が一段落しました。これまで同様に専門機関や他の支援者と連携し、被災者への入居前からの繋がりづくりに心掛けます。また、入居者への計画的な巡回訪問と丁寧な相談業務の実施はもとより、隣近所が支えあう関係づくりに努めます。

【決算】 事業活動収入 11,091,811円

事業活動支出 11,091,733円

その他の活動支出 0円

当期資金収支差額 78円

(4) 気仙沼市北部地域包括支援センター

【概要】唐桑地域及び鹿折地区の高齢者に関する介護や病気、認知症、高齢者虐待に関する相談に対し、訪問や面接、電話で対応し、必要な場合は関係機関と連携し解決に向けた支援を行いました。

地域包括ケアシステム構築に向けて、「唐桑地域多職種連絡会」を開催しました。また、新規に認知症総合支援事業として「認知症介護家族交流会」等の取り組みを始めました。

【実績】

月	対応実数	対応延べ数内訳										
		対応方法			対応理由区分							
		訪問	面接	電話	認知	権利擁護	介護	生活	ケアマネ支援	予防総合	契約のみ	その他
4	77	59	16	64	42	5	35	3	9	15	15	15
5	99	69	17	64	12	1	31	13	20	10	10	53
6	83	60	32	56	13	5	46	16	12	11	8	37
7	76	59	11	36	4	2	25	2	7	17	8	41
8	81	52	12	69	7	3	25	7	11	36	6	38
9	63	42	24	58	8	10	39	12	2	22	9	22
10	80	59	21	84	10	0	46	24	4	17	4	59
11	79	59	21	103	13	5	39	21	12	28	7	58
12	73	54	18	66	25	2	27	11	7	29	8	29
1	72	48	26	87	44	11	47	11	4	12	9	23
2	77	49	22	105	49	24	29	12	5	16	9	32
3	90	69	23	106	44	6	40	33	8	10	11	46
合計	950	679	243	898	271	74	429	165	101	223	104	453
前年度	851	722	260	904	278	90			152	219	59	1088

【研修・会議等参加状況】

月 日	主 な 会 議 ・ 研 修 会 等	開 催 場 所
平成28年4月14日	宮城県ケアマネ協会気仙沼支部情報交換会	すこやか
4月16日	介護支援専門員研修	市役所
5月19日	認知症キャラバンメイトスキルアップ研修会	市役所
6月16日	ケアマネジャー協会気仙沼支部研修会	すこやか
7月9日～10日	認知症初期集中支援チーム員研修	東京都
7月12日	認知症の人と家族の研修会	市役所
7月 6日	第4回気仙沼市地域包括支援センター運営協議会	すこやか
7月14日	気仙沼圏域認知症医療連携協議会ワーキンググループ	気仙沼保健福祉事務所
8月10日	気仙沼市権利擁護研修	すこやか
9月1日～2日	認知症地域支援推進員研修	仙台市
9月 9日	癌患者と家族への精神的ケアに関する研修会	気仙沼保健福祉事務所
9月10日	生活困窮者自立支援フォーラム	市役所
10月17日	宮城県地域包括支援センター職員課題別研修	仙台市
11月17日	認知症講演会	気仙沼市
11月29日、30日	普通救命講習	燦さん館
12月5日	地域包括職員意見交換会	仙台市
平成29年2月21日	認知症地域支援推進員研修	仙台市
毎月1回開催	認知症初期集中支援チーム員会議	市役所
毎月1回開催	包括会議（気仙沼・大島・北部・南部包括の代表者の会議）	市役所

【成果】唐桑地域において、「唐桑地域多職種連絡会」で医療、介護、行政等関係者を対象に、「訪問リハビリ」についての研修会を企画し、事務局として運営に携わりました。

今年度からの新規事業の、認知症総合支援事業の取り組みとして、認知症介護家族の交流の場づくりのため、28年度は2回の「認知症介護家族交流会」を開催しました。

（平成28年度 介護保険事業収入目標達成度 105% 前年度109%）

【課題】認知症施策の取り組みを行っていくために、地域ではどのようなニーズがあるかを検討していく必要があります。

【今後の取組】29年度は、唐桑地域におけるフォーラム開催に向けて、事務局として企画運営に携わります。認知症総合支援事業として、「認知症介護家族交流会in唐桑」を2回開催します。又認知症サポーターの活動支援として、「グループホーム」でのボランティア活動のコーディネート計画したいと考えています。

【決算】事業活動収入 27,115,001円 事業活動支出 26,836,418円
 その他の活動支出 1,335,024円
 当期資金収支差額 -1,056,441円

（前期末支払資金残高から充当）

（５）気仙沼市南部地域包括支援センター

【概要】本吉地域の地域組織、警察や関係機関と連携し、認知症独居、虐待ケース等の問題に対応しました。２８年４月からの総合事業も、問題なく移行することができました。認知症初期集中支援チーム員会議ではケース検討を行い、対応方法を参考にして支援に繋げることができました。認知症関連は、前年度に引き続き、認知症サポーター養成講座や認知症懇談会を開催し、認知症の啓発や支援に努めました。

【実績】

月	実数	対応方法			対応理由区分							
		訪問	面接	電話	認知	権利擁護	介護	生活	ケアマネ支援	予防支援	契約のみ	その他
4	62	52	10	19	3	2	24	11	3	12	12	14
5	68	53	11	23	4	6	28	5	4	13	8	19
6	80	66	24	59	13	13	46	13	3	26	6	29
7	77	53	38	99	9	6	78	38	2	18	9	30
8	91	75	21	91	33	0	36	25	9	32	20	32
9	84	64	20	65	27	6	46	6	6	15	12	31
10	80	53	25	88	12	21	63	10	3	32	5	20
11	89	64	26	145	13	47	77	34	4	36	8	16
12	71	55	25	77	27	14	56	26	2	14	5	13
1	85	74	25	49	11	7	35	15	9	25	17	29
2	61	52	11	47	31	2	28	9	10	12	8	10
3	84	54	31	72	47	6	38	18	6	7	3	32
合計	932	715	267	834	230	130	343	210	61	242	113	275
前年度	1038	679	380	1149	297	53			162	223	67	1350

【研修・会議等参加状況】

月 日	主な会議・研修会等	開催場所
平成28年4月16日	介護支援専門員研修会	気仙沼市役所
4月21日	地域包括支援センター職員基礎研修会	宮城県庁
7月9～10日	認知症初集中支援チーム員研修	ベルサール渋谷ファースト
7月19日	地域医療連携室研修会	気仙沼市立病院
8月23日	気仙沼市権利擁護研修会	市民健康管理センターすこやか
9月1日～2日	認知症地域支援推進員研修会	仙台市TKPガーデンシティ
9月2日	地域包括課題別研修会	宮城県庁
9月9日	がん患者と家族への精神的ケアに関する研修会	気仙沼保健所
11月8日	気仙沼南三陸成年後見サポート連絡協議会	気仙沼保健所
12月1日	宮城県地域包括支援センター職員意見交換会	東京エレクトロンホール
12月9日	高齢者権利擁護講演会	気仙沼保健所
平成29年2月29日	宮城県認知症地域支援推進員情報交換会	宮城県庁
3月16日	気仙沼市権利擁護研修会	気仙沼市役所

【成果】認知症懇談会で、認知症研究員の講師より認知症の病気や対応方法等を学びました。必要時に地域ケア会議を開催し、個別ケースの課題の整理や方向性を検討しました。ケアマネジメント情報連絡会で癌になっても安心して地域で安暮らせるよう癌の講話や意見交換を行い、多くの方と共有できました。

【課題】虐待の通報や相談が増加し、情報収集や迅速な対応が必要となっています。独居の認知症高齢者が増えており、地域や関係機関との連携を強化していく必要があります。

【今後の取組】認知症になっても安心して地域で暮らせるよう、地域や関係機関と連携しケア会議等で情報共有を行っていきます。また、より大勢の方々に認知症への理解が得られるよう認知症サポーター養成講座の継続や地域での講話の機会を捉え、啓発活動を進めていきます。さらには、虐待をどのようにして防いだら良いか、虐待になる原因を検討しケアマネ支援等を行っていきます。

また、平成29年度から生活支援体制整備事業が開始になることから、説明会等出席し地域の実情を把握し、関係機関と連携を図っていきます。

【決算】事業活動収入 27,586,350円 事業活動支出 26,266,080円
 その他の活動による支出 318,618円
 当期資金収支差額 1,652円

(6) 津谷在宅介護支援センター

【概要】本吉地域（津谷、馬籠、大谷地域）の高齢者の総合相談窓口として、訪問等による相談や実態調査を実施し、生活課題の早期把握や早期支援に努めました。

【実績】

1 実態把握業務

区分別調査件数	実態把握件数		
	年度初回	2回目以降	合計
訪問	87	1	88
来所	0	0	
合計	87	1	88
前年度	70	0	70

2 活動実績内訳

訪問目的内訳		訪問		来所のみ	
		実数	延数	実数	延数
に包 よ括 るの 訪依 問頼	在介実態把握	88	88	0	0
	在介経過観察・見守り	0	0	0	0
	サービス未利用者実態把握(要介護者)	0	0	0	0
	サービス未利用者実態把握(要支援者)	0	0	0	0
	二次予防事業実態把握	0	0	0	0
相 談 に よ る 訪 問	家族	0	0	0	0
	本人	0	0	0	0
	民生委員	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
合 計		88	88	0	0

支援内容内訳		訪問		来所のみ	
		実数	延数	実数	延数
介 護 保 険 適 用	介護保険認定申請支援	1	1	0	0
	居宅介護支援事業所紹介			0	0
	施設入所支援	0	0	0	0
	福祉用具購入	0	0	0	0
	住宅改修	0	0	0	0
地域包括支援センターへ				0	0
他制度利用支援		0	0	0	0
要経過観察		88	88	0	0
二次予防事業への参加意向の有無 訪問型		0	0	0	0
通所型		0	0	0	0
救急医療情報キット配付		5	5	0	0
合 計		94	94	0	0

【成果】実態把握や相談業務により、高齢者の生活課題の早期把握とともに必要な支援に向けた関係機関等との連携ができました。

【課題】従事職員が兼務の為、効果的な時間配分と配車計画が必要となっています。

【今後の取組】独居や高齢世帯、認知症の高齢者など地域との関わりをさらに強くしていく必要があることから、対象者本人にも地域との関わりを大切にすることを呼び掛け民生委員等との連携を大切にしながら取り組みを進めます。

【決算】事業活動収入 690,954円 事業活動支出 690,954円
当期資金収支差額 0円

生活支援型食事サービス	【概要】 虚弱な高齢者の単身世帯等を対象に、生活を支える「食」の確保を図りながら安否確認と自立支援を行うとともに、利用者とその家族の身体的・精神的な負担の軽減を図ることを目的として、毎週火・木・金曜日のうち週1～2回の利用ができるものとし、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、ボランティア等の協力を得て実施しました。 【実績】 気仙沼地域 利用者：73人 配食数：2,825食 唐桑地域 " : 7人 " : 118食 本吉地域 " : 27人 " : 605食 利用者合計：107人 配食数合計：2,532食 【成果】 緊急対応ケースはありませんでした。日中一人で過ごしている方が多いためか、民生委員・児童委員やボランティア、配達職員等が定期的に訪問するのを楽しみにしている方も多いようです。 【課題】 協力者の継続的な確保が難しい状況にあります。 【今後の取組】 当面は現行のとおりに実施します。 【決算】 事業活動収入 2,935,869円 事業活動支出 2,925,969円 当期資金収支差額 9,900円
生きがい活動支援通所事業(元気老人デイサービス事業)	【概要】 おおむね65歳以上の高齢者を対象に、本吉老人福祉センター及び地域集会所等において、生きがい活動援助員による通所サービスを提供することにより、社会的孤立感の解消や自立生活の助長及び要介護状態となることの予防を図りました。 【実績】 延利用回数 : 235回 延利用者数 : 3,359人 【成果】 新たな利用者も活動にとっても慣れ、他の利用者と一緒に楽しくにぎやかに過ごすことが出来て「ここに来ること楽しみで待ち遠しい」と笑顔も増えてきています。昨年度に引き続き、意欲を引き出せるよう支援を進めました。 【課題】 軽度認知症高齢者の利用増加とともに利用者が今、興味を持っていることは認知症であり、正しい知識を得ることで偏見をなくし、誰でも和やかに参加できるよう地域包括支援センターと連携し認知症予防プログラムを増やしていくことが必要です。特に「自分らしさとは何か」について皆で考える取り組みを検討していきます。 【今後の取組】 活動拠点の本吉保健福祉センター「いこい」の栄養指導室や多目的ホールなどの機能を有効活用し、多様なプログラムを考え内容を充実させるとともに、地域の特性を活かし、様々な提案を受け入れ、満足感の向上と事業の効果が実感できるよう支援に取り組みます。 【決算】 事業活動収入 7,507,270円 事業活動支出 6,924,308円 その他の活動支出 376,068円 当期資金収支差額 206,894円
家族介護者交流事業	【概要】 高齢者を介護している家族に対して、日帰り温泉等で介護者相互

(気仙沼・唐桑地域) 在宅介護者リフレッシュ 事業区分より支出	の交流を通し、介護者を介護から一時的に開放することにより、参加者の心身のリフレッシュを図りました。 【実績】 7月12日 気仙沼ホテル観洋 参加者13人 2月17日 唐桑燦さん館 参加者13人 【成果】気仙沼地域では震災後初の開催となりましたが、市内居宅介護支援事業所の協力をいただきながら周知することができました。 参加者数は少なかったものの、「日常的なリフレッシュ方法の共有やたくさんおしゃべりができて良かった」という参加者の声もあり、一部の方ではありますが、リフレッシュに繋げることができました。 【課題】バスで市外へ行く方法ではなく、市内の施設を活用することで参加しやすい工夫をしましたが、参加者が少なかったので、実施する曜日の変化を取り入れるなど、さらに検討が必要と感じました。 【今後の取組】介護保険や在宅介護に係る他機関・団体等の事業と十分に調整をすることで、参加しやすい環境づくりに努めます。 【決算】事業活動収入 128,499 円 事業活動支出 128,499 円 当期資金収支差額 0 円
家族介護者交流事業 (本吉地域) 津谷在宅介護支援センターサービス区分より支出	【概要】高齢者を介護している家族に対して、日帰り温泉で介護者相互の交流を通し、介護者を介護から一時的に開放することにより、参加者の心身のリフレッシュを図りました。 【実績】 7月9日 平泉温泉 武蔵坊 参加者21人 11月10日 南三陸ホテル観洋 参加者26人 【成果】今年度は、以前から希望があった「近場でゆっくり過ごしたい」という意見も取り入れ企画しました。紅葉の時期でもあり「とてもいい時期に来てゆっくりできた。この交流会に参加し、また介護を頑張ろうと思えた」という意見もありました。外国から嫁ぎ介護をしている方の参加もあり、なかなか地域の人と関わる機会も少ない中で、介護者間でのコミュニケーションとリフレッシュの場になっていたと思われます。今回は、ストレス解消についてのミニ講話も行い、参加者の中からも、具体的に普段から行なっているストレス解消法の意見も頂きました。今後も講話の内容について検討したいと思います。 【課題】広報等でも周知していますが、参加者の多くは社協の居宅介護支援事業所利用者が主となっていることから、広く周知する必要があります。 【今後の取組】広く参加を呼び掛けていくために、他の居宅介護支援事業所への情報提供を徹底していきます。 【決算】事業活動収入 690,954 円 事業活動支出 690,954 円 当期資金収支差額 0 円
家族介護教室事業	【概要】高齢者を介護している家族等に対し、家族介護教室を開催することにより要介護高齢者の状態の維持・改善を図るとともに、在宅生活の質の向上を図りました。

津谷在宅介護支援センターサービス区分より支出	【実績】 10月25日 排泄について 参加者 8名 3月24日 肺炎予防について 参加者 25名 【成果】 10月の開催時に参加者が少なく、参加者からは「とても良い内容だったのに人数が少なくて残念」という意見がありました。3月には介護者だけでなく、今後、介護者になり得る関心のある方にも広く声がけしたところ多くの方に参加していただきました。介護予防や在宅生活を健康に過ごすための質の向上に繋がりました。 【課題】 家族介護者交流会と同様に参加への周知方法について課題となっています。 【今後の取組】 ケアマネジャー定例会などで前回の様子を話し、他の事業所のケアマネジャーへの周知も再確認し、デイサービスなどにも配布し呼びかけを行ない、多くの参加が得られるよう努めます。 【決算】 事業活動収入 690,954 円 事業活動支出 690,954 円 当期資金収支差額 0 円
外出支援サービス事業	【概要】 リフト付車両及びストレッチャー装備ワゴン車等により、利用者の居宅と在宅福祉サービスを提供する場所及び医療機関等との間の移動を支援しました。 【実績】 延利用者数 24人（実利用者3人） 延利用回数 56回（自宅から目的地までの片道を1回でカウント） 【成果】 リフト付きの車両での送迎が必要な方の定期的な通院時の移動支援の一助を担うことができました。 【課題】 利用条件の制限により実利用者数は現状で3人となっており、減少傾向にあります。また、本事業は気仙沼市からの委託ですが、市内の介護タクシー事業者が普及している状況であることから、事業のあり方について気仙沼市と協議する必要があります。 【今後の取組】 今後の事業運営について、委託者である気仙沼市と協議をしているところでありますが、引き続き効果的な事業となるよう取り組みます。 【決算】 事業活動収入 77,900 円 事業活動支出 41,400 円 当期資金収支差額 36,500 円
大谷学童保育事業	【概要】 日中、留守家庭等により保育が困難と認められる小学生をお預かりし保育する目的で学童保育事業を実施しました。通年土曜日開所及び長期休業並びに一時預かりも周知徹底され、様々な開所区分での保育運営を行いました。 【実績】 対象児童：留守家庭の小学校1年生から6年生まで 登録児童数：39人 延開所日数：286日 通常利用延人数：7,185人 短期利用人数：134人 【成果】 加配児童及び個々の特性が多様化し、小学校の先生方との連携も

重要性を増しており、児童及び各家庭の状況把握のため話し合いや情報提供の機会を必要に応じ学年毎に設け、児童や家庭に寄り添える保育に努めました。また、様々な想定での避難訓練を実施するとともに、駐在や地域住民との防犯等に関する訓練の実施や季節や月ごとの様々な行事や幼稚園、デイサービス、公民館や地域の婦人部との交流事業も実施し、地域に開けた学童保育になるよう取り組みました。なお、安全管理及び各児童や家庭の把握に努め、職員間での情報共有や伝達、自己研鑽のための各研修会にも参加しました。

【課題】加配児及び個別配慮児童等に対して、児童の特性の把握とその対応については職員間の共通認識と一貫性が求められることから、非常勤が多い職員体制上、日々の児童の様子を毎日通して見守ることが難しく、経験の浅さ等、児童や保護者との信頼関係を築くことの難しさもありました。また、遊びや生活の中で異年齢児同士の関わりは見られるものの、様々な事情で学年が上がるにつれ利用児童数が減っていく中、来所時間の違いからも学童保育ならではの縦の関係をういたイベントや交流事業への児童の参加の難しさもありました。

【今後の取組】個別配慮が必要な児童を含め、各児童の特性を踏まえより細やかな質の高い保育に取り組めるよう、職員間の共通認識と保育の振り返りが行えるよう、職員会議や申し送りの場をより多く設け、語り合える関係を築いていきます。また、職員の保育意識の向上を図るため、各種研修の充実を図り、学童保育ならではの異年齢児同士の関わりを大切に捉え、普段の生活では味わえない季節ごとの各種イベントや地域との様々な交流事業に楽しんで参加できるよう、地域や各関係機関との連携、各年齢の発達段階を考慮した内容等も工夫し、児童が主体的で積極的に行える体験活動を取り入れていきます。

【決算】事業活動収入 8,877,140 円 事業活動支出 8,823,145 円
当期資金収支差額 53,995 円

15. 団体事務

事業名	内 容
気仙沼市民生委員・児童委員協議会	【概要】市民児協事務局として、団体会務に係る外部機関との連絡調整から各地区民児協及び委員への情報提供等を行いました。 【実績】 役員会 3回（4月、10月、12月） 総会 2回（5月、12月（臨時総会）） 地区民児協会長会議 1回（7月） 正副会長会議 2回（11月、3月） 【成果】一斉改選年度ではありましたが、役員会等を効果的に開催することで、新体制づくりをスムーズに行えるよう支援できました。また、職員の各地区民児協定例会出席による連携を図りました。 【課題】一斉改選による新任民生委員に対し、県が主催する新任委員研修以外の具体的な支援をすることができませんでした。 【今後の取組】引き続き団体会務が円滑に行えるよう連携を密にして取り組みます。
本吉ブロック民生委員・児童委員協議会連絡協議会	【概要】本吉ブロック民児協（構成：気仙沼市民児協・南三陸町民児協）の事務局として、団体会務に係る外部機関との連絡調整をしました。 【実績】 理事会 1回（12月） 評議員総会 1回（12月） 【成果】一斉改選年度であったことから、南三陸町民児協事務局との日程調整が難しい中ではありましたが、新体制づくりを遅延なく構築することができました。 【課題】南三陸町民児協と連携を密にして、民生委員・児童委員活動における課題を共有しながら有用な研修機会を作ります。 【今後の取組】南三陸町民児協との連携を密にして取り組みます。
気仙沼市共同募金委員会	【概要】共同募金委員会事務局として、住民への募金に関する理解や募金運動に関する支援、団体会務に係る外部機関との連絡調整等を行いました。 【実績】 監査会 1回（9月） 理事会等 2回（9月、3月） 評議員会 2回（9月、3月） 配分調査委員会 2回（12月、3月） 【成果】広く住民皆さんに共同募金の趣旨への理解とともに、地区奉仕員及び自治会長を中心として、募金活動の協力をいただくことができました。このほか、宮城県県共募助成事業の幅広い周知により、市内各地で助成金を活用した住民支え合い活動が展開されました。 【課題】震災後の配分方法の検討をしながら、市民の善意が効果的に配分活用されるように努めます。

	【今後の取組】理事及び評議員ほか、地区奉仕員を中心に、広く住民に対して共同募金運動へ理解と協力が得られるよう団体会務を支援します。
気仙沼市ボランティア連絡会	【概要】市内のボランティア団体をもって組織し、各団体の育成と連携・協力を図り、ボランティア活動の推進に寄与することを目的としており、現在は旧気仙沼地区と唐桑地区の計12地区ボランティアクラブから構成されています。 【実績】 総会、監査会、役員会（年5回程度）、他団体会議への出席、他団体活動への参加協力、研修会等 【成果】他地区と情報を共有することにより自地域での活動の幅が広がり地域住民に対する活動の質が向上していると思われます。新たに大崎市と登米市が主催する県北地域のボランティア交流会に参加し、近隣地域のボランティア団体との情報交換や交流を深めることができました。 【課題】会員の高齢化によりリーダーが辞めていくことに伴い後継人材の育成が必要となっています。 【今後の取組】当面は現行のとおり行います。
気仙沼市老人クラブ連合会	【概要】関係機関と連携しながら、市老人クラブ連合会事務局の適正な運営と老人クラブ活動の活性化を図りました。 【実績】 会議等（総会1回、定例理事会5回、臨時理事会1回、監査会1回、専門部会2回、市高齢者事業運営委員会2回、研修会5回、関係大会4回） 【成果】多くの研修会に参加し、事業運営を行いました。各関係機関の協力により事業の効率と活性化が図られました。また、大崎市松山老人クラブ連合会、本吉地区老人クラブ連合会との交流会を実施し、お互いの情報共有を図り、地域活動への幅の広がりや今後の活動について検討することができました。 【課題】高齢化と会員の減少により、リーダーの役割を果たしてきた方々が辞めていくため、後継者育成が必要となっています。 【今後の取組】現状に即した事業企画や目的を確認しながら後継者育成を継続できるように支援していきます。また、新しい老人クラブ世代の多種多様な活動に対応できるように、リーダーの育成と連合会活動の充実に努めます。
本吉町老人クラブ連合会	【概要】関係機関と連携の上自主的運営を推進し、全国三大運動（心と体の健康づくり、友愛活動、社会奉仕活動）の積極的な推進と活性化を図りました。 【実績】 会議等（総会、監査会、役員会2回、単位老人クラブ会長会議2回）、室内体育大会等健康づくり関係事業4回、芸能交歓会、女性部総会・研修会、研修会・関係大会

	【成果】役員会で新たな講師の受入れや不要経費削減などの積極的な提案が出され、事業の見直しや効果的な運営に繋がりました。また、気仙沼市老連女性部との交流機会をつくることができました。 【課題】会員年代層の広がりや踏まえ、各年代を繋ぐ多種多様な活動への見直しや工夫が必要です。また、当事者組織としての自主的な運営ができるような方向づけを引き続き検討していきます。 【今後の取組】役員会に連合会活動の方向性や具体的な事例などを提案し、年代を超えて会員誰もが参加できるような事業内容へと見直しを図っていきます。併せて自主的な運営に向け、事業運営等への役員や会員への協力の働きかけを行い、当事者組織であることの意識づけを図ります。
本吉地区遺族会	【概要】遺族会として友愛の精神で互いに助け合い、福祉の増進につとめ戦没者諸英霊の祭祀を厚くし、関係機関と連携強調し、後世にわたって平和の尊さを認識してもらえよう意識しながら事業を推進しました。また、本吉地域忠霊塔の修繕工事が完了しました。 【実績】会議等（総会 1 回、臨時総会 2 回、監査会 1 回、役員会 4 回、本吉地域忠霊塔改修事業委員会 1 回）、気仙沼市戦没者追悼式参列、本吉地区戦没者追悼式、本吉地域忠霊塔復旧工事 【成果】正副会長をはじめ役員と相談し、欠員となっていた地域での世話役（評議員）選出への声掛けができ、会員の減少に少なからず歯止めをかけることができました。また、数年にわたり検討してきた本吉地域忠霊塔修繕の話が進展し、会員をはじめ、行政等の協力により忠霊塔の修繕工事を完了することができました。 【課題】役員と協力しながら会員減少対策に取り組んできましたが、戦後 70 年以上が経過していることから全国的に遺族会会員は減少傾向にあります。 【今後の取組】本会だけでなく市遺族会や県連遺族会とも連携を密にし、会員に広く遺族会の趣旨等への理解が得られ、戦争の悲惨さや先祖を敬う気持ちを育むことで、会員減少を防ぐことができるような方策等を検討し対応します。